

単元名（教材名）

学校の図書室の本の貸し出し数を増やすための提案文を書こう
 （光村図書『国語 六 創造』『私たちにできること～具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう～』）

本時の目標

筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。
 [思考力、判断力、表現力等 B書くこと(1)イ]

読解力向上プランVer. 2における指導のポイント

- ①主語と述語を明確にして説明させる。
- ⑤見たことや聞いたこと、考えたことを省略せずに丁寧に説明させる。

	学習活動	指導上の工夫
導入	○提案の目的・対象を再度確認する。	全員で
展開	○前時までに作成した内容ごとのまとまり(段落)をどんな順番で並び替わりやすい提案文になるかを考える。 ☆並び替わたり、接続語等を加えたりした提案文をペアで読み合い、意見を出し合っ、最善の提案文を作る。	・タブレット端末を用いて、内容のまとまり(段落)をいろんなパターンで並び替えさせる。 ・並び替えた後、接続語や補った方がよい内容を入力させる。個人で ・並び替える順番に必ずしも一つの正解があるわけではないが、ペアで読み合っ、分かりやすい提案文かどうか検証していくことが大切。 ・検証する際には、「ここが分かりにくい」や「ここをこうした方がよい」など、具体的に意見を言い合うように指導する。 ・主語と述語にねじれがないか、常に意識させる。ペアで
まとめ	○並び替えた後の提案文を清書する。(原稿用紙を用いて実際に書く。)	個人で



「タブレット端末の入力」と「手書き」とのバランス



段落の並び替えのときは、その特性からタブレット端末を活用して、試行錯誤しながら、最善の構成を考えさせるのが有効です。そのため、本単元の序盤に、内容のまとまりごとの文章を書く学習活動のときは、自ずとそれもタブレット端末を用いることとなります。しかし、単元の最後に提案文の清書をさせるときには、原稿用紙に実際に書かせましょう。決められた時間内に自らの手で原稿用紙に文章を書き写すという作業は、一見単純な作業に見えますが、読解力を必要とする大切な工程です。タブレット端末のみで学習をさせるのではなく、手書きの学習との効果的な使い分けを心がけましょう。

☆板書例☆

● 提案文を書く

● 目的 学校の図書室の本の貸し出し数を増やすための対象 全校児童(小1～小6)

● 内容のまとまり(段落)

● 現状 図書室の本の貸し出し数が、年々減少している。

● 理由 自分への考え(提案) お昼休みの放送で、本の魅力を伝える。

● 理由 インターネットなどから得られる情報もあるが、本から得られるものもたくさんあるから。

● 事例 週一回、お昼休みの放送で、図書委員が交代でブックトークをする。ブックトークとは、聞き手に興味をもってもらうために、あるテーマに沿って複数の本を紹介することである。

● 考えよう(めあて)

★どの順番に書くか伝わりやすいか。

★どのような接続語を用いたら、段落とうしがつながるか。

★付け加えた方がいい内容はあるか。

◇実践のポイント◇

「提案文を書く」という言語活動を取り上げた授業です。相手に自分の提案を分かりやすく伝えるためには、構成や展開を試行錯誤して考えたり、接続語や付け加えた方が分かりやすい内容を補ったりする必要があります。また、文章を書かせる際には、主語と述語を常に意識して、ねじれない文章にすることを習慣化させましょう。

◇活用できる教材例◇

- 「世界に目を向けて意見文を書こう」東京書籍『新しい国語 六』
- 「随筆を書こう」教育出版『ひろがる言葉 小学国語 六上』

